

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6963696号
(P6963696)

(45) 発行日 令和3年11月10日 (2021. 11. 10)

(24) 登録日 令和3年10月19日 (2021. 10. 19)

(51) Int. Cl.	F 1
A 2 4 F 40/40 (2020. 01)	A 2 4 F 40/40
A 2 4 F 40/20 (2020. 01)	A 2 4 F 40/20

請求項の数 12 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2020-552074 (P2020-552074)	(73) 特許権者	518167284
(86) (22) 出願日	平成30年3月13日 (2018. 3. 13)		シャanghai ニュー タバコ プロダクト
(65) 公表番号	特表2021-510079 (P2021-510079A)		リサーチ インスティテュート カンパ
(43) 公表日	令和3年4月15日 (2021. 4. 15)		ニー, リミテッド
(86) 国際出願番号	PCT/CN2018/078864		中華人民共和国, シャanghai, ヤンプー
(87) 国際公開番号	W02019/119650		ディストリクト, チャンヤン ロード ナ
(87) 国際公開日	令和1年6月27日 (2019. 6. 27)		ンバー733, ビルディング 20, ルー
審査請求日	令和2年6月15日 (2020. 6. 15)		ム 740
(31) 優先権主張番号	201711376329.8	(73) 特許権者	512005036
(32) 優先日	平成29年12月19日 (2017. 12. 19)		シャanghai タバコ グループ カンパニ
(33) 優先権主張国・地域又は機関	中国 (CN)		ー リミテッド
			Shanghai Tobacco Gr
			oup Co., Ltd.
			中華人民共和国, ヤンプー ディストリクト
			, シャanghai, チャンヤンロード 717
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 エアロゾル発生装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

相互に取り外し可能に接続される貯蔵器及びマウスピースを備え、前記貯蔵器及び前記マウスピースが共同でエアロゾル発生基体を収容するチャンバーを形成する抽出部と、

前記抽出部に取り外し可能に接続され、前記マウスピースとの間に前記貯蔵器が配置され、前記チャンバー内に挿入され前記エアロゾル発生基体を加熱するための加熱部をさらに備える本体と、を備え、

前記貯蔵器及び前記マウスピースがそれぞれ軸方向上の方が反対の力を受けた場合、前記マウスピースの前記本体と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することで、前記マウスピースと前記貯蔵器を分離させ、

前記抽出部が前記本体と分離する前に、前記本体は前記マウスピースの前記本体と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することを制限することを特徴とするエアロゾル発生装置。

【請求項 2】

前記貯蔵器と前記マウスピースが係合又は螺合の方式で接続されることを特徴とする請求項 1 に記載のエアロゾル発生装置。

【請求項 3】

前記マウスピースの一端が前記貯蔵器の外部に外嵌されることを特徴とする請求項 2 に記載のエアロゾル発生装置。

【請求項 4】

10

20

前記マウスピースの前記本体と隣接する一端の内側に隙間が設けられ、前記マウスピースの前記本体と隣接する一端が径方向の内向きの力を受けると、内側へ変形することを特徴とする請求項 3 に記載のエアロゾル発生装置。

【請求項 5】

前記径方向の内向きの力は、前記抽出部と前記本体とが分離しているうちに、前記本体が前記マウスピースに施す径方向の内向きの力を含むことを特徴とする請求項 4 に記載のエアロゾル発生装置。

【請求項 6】

前記マウスピースの一端が貯蔵器の外部に外嵌され、前記マウスピースと前記本体が係合の方式で接続され、前記マウスピースの一端が前記本体の内部に挿入されることを特徴とする請求項 1－5 のいずれか一項に記載のエアロゾル発生装置。

10

【請求項 7】

前記マウスピースは 2 つ以上のカンチレバーを有し、前記カンチレバーによって前記貯蔵器及び前記本体に係合の方式で接続されることを特徴とする請求項 6 に記載のエアロゾル発生装置。

【請求項 8】

前記カンチレバーに凸部が設けられ、前記本体に凹部が設けられ、前記カンチレバーと前記本体が前記カンチレバーの凸部と前記本体の凹部によって係合接続され、

又は、前記カンチレバーに凹部が設けられ、前記本体に凸部が設けられ、前記カンチレバーと前記本体が前記カンチレバーの凹部と前記本体の凸部によって係合接続されることを特徴とする請求項 7 に記載のエアロゾル発生装置。

20

【請求項 9】

前記本体にガイド溝が設けられ、前記カンチレバーが前記ガイド溝に沿って所定の係合位置にスライド可能であり、且つ、前記エアロゾル発生装置に加熱インジケータがさらに設けられ、前記マウスピースの前記本体から遠い他端に、前記チャンバーと連通する吸い孔が偏心して設けられ、前記抽出部が前記所定の係合位置にスライドすると、前記吸い孔が前記加熱インジケータの所在する側に寄ることを特徴とする請求項 7 に記載のエアロゾル発生装置。

【請求項 10】

前記貯蔵器の外面に案内溝が設けられ、前記カンチレバーの内面に案内溝が設けられ、案内溝と案内溝との嵌合によって、前記マウスピースと前記貯蔵器が所定の係合位置で接続されることを特徴とする請求項 9 に記載のエアロゾル発生装置。

30

【請求項 11】

前記カンチレバーの前記本体に接続される一端の外表面は凹凸な表面であることを特徴とする請求項 7 に記載のエアロゾル発生装置。

【請求項 12】

前記貯蔵器の前記本体に近い一端に孔が設けられ、前記加熱部は、少なくとも一部が前記孔を通して前記チャンバー内に挿入されることを特徴とする請求項 1 に記載のエアロゾル発生装置。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明はタバコの技術分野に関し、具体的には、エアロゾル発生装置に関する。

【背景技術】

【0002】

近年、健康への関心が日々高まるにつれて、伝統的な紙巻タバコが健康に一定の害を及ぼすことに気づき、伝統的な紙巻タバコの健康及び環境への影響の問題は世界各国から重要視されつつある。タバコメーカーはいずれも消費者に害のすくないタバコ製品を提供することに取り組んでおり、近年、低温加熱式非燃焼タバコ製品はタバコ消費の新たな形式

50

として、徐々に市場に受け入れられ、ほとんどの国家の紙巻タバコ消費者にますます受け入れられている。

【0003】

従来技術の低温加熱式非燃焼タバコ製品はほとんど、特製のタバコロッドを収容する加熱チャンバーを設置し、ヒーターが該チャンバー内に挿入されてタバコを加熱してエアロゾルを発生させ、ユーザーが喫煙を完了した後、タバコロッドを直接取り出し、新たなタバコロッドを交換すればよい。しかしながら、ヒーターの表面にタバコ加熱による残渣が粘着しやすいため、ヒーターの表面をクリーニングし難く、且つヒーターのタバコに対する粘着力のため、巻きタバコを直接取り出すと、タバコロッドの全体構造の損傷につながり、タバコが加熱チャンバー内に散在する恐れがあり、クリーニングが煩瑣である。

10

【0004】

現在、フィリップモリスプロダクツ社はエアロゾル発生装置を開示している。該装置はエアロゾル形成基体を含む発煙製品を受け入れるように構成され、エアロゾル形成基体を加熱してエアロゾルを形成するためのヒーターを備える。抽出器はエアロゾル発生装置内に受け入れられた発煙製品を抽出するためのものである。抽出器は、発煙製品を受け入れるためのスライドレセプタクルと、スライドレセプタクルを受け入れるためのスリーブと、を備える。スライドレセプタクルはスリーブ内で第1位置と第2位置との間でスライド可能であり、該第1位置では、ヒーターによって加熱されるように発煙製品のエアロゾル形成基体が位置決めされ、該第2位置では、エアロゾル形成基体がヒーターとほぼ分離している。該技術案では、スライドレセプタクルを第1位置から第2位置にスライドさせることで、ヒーターの表面に付着するタバコ残渣をきれいに除去でき、且つタバコの全体構造を維持でき、第2位置では、タバコ全体を取り出し、それによってタバコがスライドレセプタクル内に残留することを効果的に回避できる。しかしながら、該エアロゾル発生装置はマウスピースを有さず、タバコロッドの一端が外部に直接露出している。第1位置では、スライドレセプタクルの挟持装置によってタバコをスライドレセプタクル内に直接固定し、一部のユーザーは喫煙後、スライドレセプタクルを第1位置から第2位置にスライドさせることなく、第1位置でタバコロッドを直接抜くことが発生しやすく、タバコロッドが挟持装置によってスライドレセプタクル内にきつく挟持されているため、一部のタバコが喫煙具内に残留してしまい、クリーニングが煩瑣である。

20

30

【0005】

また、湖北中煙工業有限責任公司もフィリップモリスプロダクツ社と類似にタバコを取り出しやすい電気加熱装置を開示しており、同様にマウスピースを有さず、タバコロッドの一端が外部に直接露出している。該加熱装置はタバコを固定する挟持装置が設置されていないため、タバコを吸っているうちに、タバコロッドが落ちるおそれがあり、加熱中のタバコの残渣も落ちやすく、ユーザーをやけどしてしまう。このようにマウスピースを有さない構成では、同様にユーザーがタバコを直接誤って抜きやすい欠陥がある。

【0006】

従って、使用時、エアロゾル発生基体を固定し、取り出し時、ユーザーがエアロゾル発生基体を誤って抜くことを回避するエアロゾル発生装置を如何に提供するかは本分野では早急に解決を要する問題となっている。

40

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

本発明が解決しようとする技術的問題は、使用時、エアロゾル発生基体を固定し、取り出し時、ユーザーがエアロゾル発生基体を誤って抜くことを回避するエアロゾル発生装置を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記技術的問題を解決するために、本発明は、

50

相互に取り外し可能に接続される貯蔵器及びマウスピースを備え、貯蔵器及びマウスピースが共同でエアロゾル発生基体を収容するチャンバーを形成する抽出部と、

抽出部に取り外し可能に接続され、マウスピースとの間に貯蔵器が配置され、前記チャンバー内に挿入されてエアロゾル発生基体を加熱するための加熱部をさらに備える本体と、を備え、

貯蔵器及びマウスピースがそれぞれ軸方向上の方向が反対の力を受けた場合、マウスピースの本体と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することで、マウスピースと貯蔵器を分離可能させ、

抽出部が本体と分離する前に、本体はマウスピースの本体と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することを制限するエアロゾル発生装置を提供する。

さらに、貯蔵器とマウスピースが係合又は螺合の方式で接続される。

さらに、マウスピースの一端が貯蔵器の外部に外嵌される。

さらに、マウスピースの本体と隣接する一端の内側に隙間が設けられ、マウスピースの本体と隣接する一端が径方向の内向きの力を受けると、内側へ変形する。

さらに、径方向の内向きの力は、抽出部が本体から分離している間に、本体がマウスピースに施す径方向の内向きの力を含む。

さらに、マウスピースの一端が貯蔵器の外部に外嵌され、マウスピースと本体が係合の方式で接続され、マウスピースの一端が本体の内部に挿入される。

さらに、マウスピースは2つ以上のカンチレバーを有し、マウスピースはカンチレバーによって貯蔵器及び本体に係合の方式で接続される。

さらに、カンチレバーに凸部が設けられ、本体に凹部が設けられ、カンチレバーと本体がカンチレバーの凸部と本体の凹部によって係合接続され、

又は、カンチレバーに凹部が設けられ、本体に凸部が設けられ、カンチレバーと本体がカンチレバーの凹部と本体の凸部によって係合接続される。

さらに、本体にガイド溝が設けられ、カンチレバーがガイド溝に沿って所定の係合位置にスライド可能であり、且つ、エアロゾル発生装置に加熱インジケータがさらに設けられ、マウスピースの本体から遠い他端にチャンバーと連通する吸い孔が偏心して設けられ、抽出部が所定の係合位置にスライドすると、吸い孔が加熱インジケータの所在する側に寄る。

さらに、貯蔵器の外面に案内溝が設けられ、カンチレバーの内面に案内溝が設けられ、案内溝と案内溝との嵌合によって、マウスピースと貯蔵器が所定の係合位置で接続される。

さらに、カンチレバーの本体に接続される一端の外表面は凹凸な表面である。

さらに、貯蔵器の本体に近い一端に穴が設けられ、加熱部の少なくとも一部が穴を通してチャンバー内に挿入される。

【発明の効果】

【0009】

以上のように、本発明に係るエアロゾル発生装置は、貯蔵器及びマウスピースが共同でエアロゾル発生基体を収容するチャンバーを形成することで、エアロゾル発生基体の位置を効果的に固定でき、タバコを吸っているうちに、エアロゾル発生基体又はタバコ残渣が落ちる可能性を回避し、且つ、ユーザーが本体から抽出部を直接抜く時、すなわち、貯蔵器とマウスピースが軸方向に力を受ける場合、マウスピースが径方向に外側へ拡張することで、マウスピースと貯蔵器を分離させ、抽出部が本体と分離する前に、本体はマウスピースの本体と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することを制限し、このようにして、抽出部が本体と分離する前に、マウスピースが径方向に外側へ拡張できないため、貯蔵器とマウスピースが分離不能になり、ユーザーがエアロゾル発生基体を直接誤って抜くことを回避し、チャンバーの清浄度を確保する。

【0010】

以下、図面及び具体的な実施形態を参照しながら本発明をさらに詳細に説明する。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】本発明に係るエアロゾル発生装置の構造模式図である。

【図2】本発明に係るエアロゾル発生装置の半分解構造模式図である。

【図3】本発明に係るエアロゾル発生装置の分解構造模式図である。

【図4】本発明に係るエアロゾル発生装置の断面構造模式図である。

【図5】本発明に係るエアロゾル発生装置の部分断面拡大構造模式図である。

【図6】本発明に係る抽出部の拡大分解構造模式図である。

【発明を実施するための形態】

【0012】

10

以下、図面を参照しながら本発明の好適実施形態を詳細に説明する。本発明は各実施形態を参照して説明されるが、この発明の特徴がこれらいくつかの実施形態に限定されないと理解すべきである。それどころか、実施形態を参照して発明を説明する目的は、本発明の請求の範囲に基づいて拡張可能なほかの選択肢又は改良をカバーすることである。本発明の深い理解を提供するために、以下の説明には多くの具体的な詳細が含まれる。本発明はこれらの詳細を使用せずに実施してもよい。また、本発明の焦点を混乱させたり曖昧にしたりすることを回避するために、いくつかの詳細が省略されている。

【0013】

また、以下の説明に使用される「上」、「下」、「左」、「右」、「頂」、「底」は、本発明の好適実施形態をよく説明するために設定され、本発明を限定するものではない。

20

【0014】

本発明に係るエアロゾル発生装置は、図1～図3に示すように、抽出部200及び本体100を備え、抽出部200は相互に取り外し可能に接続される貯蔵器220及びマウスピース210を備え、貯蔵器220とマウスピース210が共同でエアロゾル発生基体を収容するチャンバーを形成し、本体100は抽出部200に取り外し可能に接続され、貯蔵器220が本体100とマウスピース210との間に配置され、本体100は、エアロゾル発生基体を加熱し、チャンバー内に挿入されるように構成された加熱部140をさらに備え、貯蔵器220とマウスピース210はそれぞれ軸方向上の方向が反対の力を受けた場合、マウスピース210の本体100と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することで、マウスピース210と貯蔵器220を分離させ、抽出部200が本体100と分離する前に、本体100はマウスピース210の本体100と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することを制限する。このようにして、抽出部200が本体100と分離する前に、マウスピース210が径方向に外側へ拡張不能であるため、貯蔵器220とマウスピース210が分離不能であり、これによって、ユーザーがエアロゾル発生基体230を直接誤って抜くことを回避し、チャンバーの清潔を確保する。

30

【0015】

さらに、本体100は回路制御部及び電源装置をさらに備え、該回路制御部はプッシュボタン113と、回路制御基板111と、回路制御基板111を固定する回路基板ホルダー112とを備え、プッシュボタン113を押すと、該回路制御基板111によって加熱部140のオンオフを制御することができ、プッシュボタン113には本体100の動作状態を表示するためのインジケータ114が設けられる。電源装置は外部電源であってもよく、使い捨てバッテリーであってもよく、回路制御部及び加熱部に給電できればよく、好ましくは、図3に示すように、電源装置は充電パッド151及びバッテリー152からなり、該充電パッド151はバッテリー152を充電可能であり、電源装置を繰り返し充電して再使用することを確保する。

40

【0016】

さらに、本体100はホルダー130、ケース121及び底蓋122をさらに備え、ケース121とホルダー130は図3に示される2つの独立した構造であってもよく、一体成形された構造であってもよく、ケース121とホルダー130は上記本体100がマウ

50

スペース２１０の本体１００と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することを制限する機能を実現できればよい。

【００１７】

さらに、貯蔵器２２０とマウスピース２１０は本分野の公知の取り外し可能な接続方式を採用できるが、操作の簡単化及び構造の簡素化の２つの点から、好ましくは、一実施例では、貯蔵器２２０とマウスピース２１０は図４及び図５に示される係合方式で接続され、別の実施例では、貯蔵器２２０とマウスピース２１０は螺合の方式で接続されてもよい（図示せず）。

【００１８】

さらに、好ましくは、マウスピース２１０の一端が貯蔵器２２０の外部に外嵌され、それによって、ユーザーが本体１００からマウスピース２１０を抜いている過程において、すなわち、貯蔵器２２０とマウスピース２１０がそれぞれ軸方向上の方向が反対の力を受けた場合、マウスピース２１０が径方向に外側へ拡張してこそはじめて、マウスピース２１０と貯蔵器２２０を分離させることができる。

【００１９】

さらに、抽出部２００と本体１００が分離する前に、本体１００はマウスピース２１０の本体１００と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することを制限する。図４及び図５からわかるように、マウスピース２１０の一端が貯蔵器２２０の外部に外嵌され、貯蔵器２２０とマウスピース２１０が係合又は螺合の方式で接続される時、マウスピース２１０の貯蔵器２２０に接続される部分が外側へ変形し、すなわち、該部分が径方向に外側へ一定量だけ拡張してこそはじめて、貯蔵器２２０をマウスピース２１０から直接抜くことができる。本発明では、抽出部２００と本体１００が分離する前に、マウスピース２１０の一端が貯蔵器２２０の外部に外嵌され、本体１００はマウスピース２１０の本体１００と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することを制限できることで、貯蔵器２２０をマウスピース２１０から直接抜くことを効果的に回避できる。

【００２０】

さらに、図４及び図５に示すように、マウスピース２１０の本体１００に接触する一端の内側に隙間が設けられ、マウスピース２１０の本体１００に接触する一端が径方向の内向きの力を受けると、内側へ変形する。該径方向の内向きの力は、抽出部２００が本体１００と分離しているうちに、本体１００がマウスピース２１０に施す力であってもよく、ユーザーがロック領域を押圧することで施される抽出部２００と本体１００を分離させる力であってもよい。マウスピース２１０の本体１００と隣接する一端の内側に隙間が設けられることで、径方向の内向きの力を受けると、マウスピース２１０の本体１００と隣接する一端が内側へ変形することができて、これによって、さらにマウスピース２１０と貯蔵器２２０をロックし、抽出部２００が抜かれる時にマウスピース２１０と貯蔵器２２０が軸方向の引張力を受けて分離することを回避する。

【００２１】

さらに、図４及び図５に示すように、マウスピース２１０の一端が貯蔵器２２０の外部に外嵌され、マウスピース２１０が本体１００に係合の方式で接続され、マウスピース２１０の一端が本体１００の内部に挿入され、このような構造によって、抽出部２００と本体１００との分離の前に、マウスピース２１０の一端が本体１００の内部に位置するため、マウスピース２１０の本体１００の内部に挿入される一端が外側へ変形することを効果的に回避し、貯蔵器２２０をマウスピース２１０から直接抜くことを回避する効果がある。

【００２２】

さらに、図４及び図５に示すように、マウスピース２１０は２つ以上のカンチレバー２１１を有し、マウスピース２１０はカンチレバー２１１によってそれぞれ貯蔵器２２０及び本体１００に係合の方式で接続される。本体１００とカンチレバー２１１との係合について、カンチレバー２１１に凸部が設けられ、本体１００に凹部が設けられ、カンチレバー２１１と本体１００がカンチレバー２１１の凸部と本体１００の凹部によって係合接続

を実現するようにしてもよく、カンチレバー 2 1 1 に凹部が設けられ、本体 1 0 0 に凸部が設けられ、カンチレバー 2 1 1 と本体 1 0 0 がカンチレバー 2 1 1 の凹部と本体 1 0 0 の凸部によって係合接続を実現するようにしてもよい。

【0 0 2 3】

さらに、カンチレバー 2 1 1 の本体 1 0 0 に接続される一端の外面が凹凸な表面である。このようにして、ユーザーがマウスピース 2 1 0 と本体 1 0 0 との係合位置を迅速に判断することができ、該部位を押圧するだけで抽出部 2 0 0 を本体 1 0 0 から迅速に抜くことができる。

【0 0 2 4】

さらに、図 3 に示すように、エアロゾル発生装置に加熱インジケータ 1 1 4 がさらに設けられ、本体 1 0 0 にガイド溝 1 3 1 が設けられ、カンチレバー 2 1 1 がガイド溝 1 3 1 に沿って所定の係合位置までにスライド可能であり、口の形に合わせ、ユーザーの使用感を向上させるために、マウスピース 2 1 0 の本体 1 0 0 から遠い他端に、チャンバーと連通する吸い孔 2 1 2 が偏心して設けられ、抽出部 2 0 0 が所定の係合位置にスライドすると、吸い孔 2 1 2 が加熱インジケータ 1 1 4 の所在する側に寄り、それによってユーザーはエアロゾル発生装置が動作状態であるか否かをリアルタイムに監視することができる。

【0 0 2 5】

さらに、貯蔵器 2 2 0 の本体 1 0 0 に近い一端の底部に孔が設けられ、加熱部 1 4 0 は、少なくとも一部が孔を通して前記チャンバー内に挿入される。加熱部 1 4 0 のチャンバーに挿入される部分の形状が非円形である場合、貯蔵器 2 2 0 と本体 1 0 0 との相対位置が固定していないと、好ましくは、孔の最も狭い部位を加熱部 1 4 0 のチャンバーに挿入される部分の最も広い部位よりも大きく設置し、それによって加熱部 1 4 0 をチャンバー内に挿入しやすくなる。又、抽出器を本体 1 0 0 から抜く時に、好ましくは、孔の形状と加熱部 1 4 0 の形状とが一致し、それによって貯蔵器 2 2 0 が加熱部 1 4 0 の表面のタバコ残渣をきれいに除去する。本発明では、図 6 に示すように、貯蔵器 2 2 0 の外面に案内部 2 2 1 が設けられ、カンチレバー 2 1 1 の内面に案内溝 2 1 3 が設けられ、案内部 2 2 1 と案内溝 2 1 3 との嵌合によって、マウスピース 2 1 0 と貯蔵器 2 2 0 が所定の係合位置で接続される。対応する案内部 2 2 1 及び案内溝 2 1 3 が設置されることで、ユーザーが貯蔵器 2 2 0 とマウスピース 2 1 0 をさらに便利に接続するだけでなく、マウスピース 2 1 0 と貯蔵器 2 2 0 が常に 1 つの固定係合位置で接続され、抽出部 2 0 0 と本体 1 0 0 も 1 つの固定係合位置で接続され、このようにして、貯蔵器 2 2 0 と本体 1 0 0 との相対位置が終始固定されることを確保し、それによって、貯蔵器 2 2 0 の底部の孔の形状及び位置が加熱部 1 4 0 の形状及び位置に応じて設置でき、孔を加熱部 1 4 0 よりもやや大きく設置することで、抽出器が本体 1 0 0 から抜かれる時、貯蔵器 2 2 0 が加熱部 1 4 0 の表面のタバコ残渣をきれいに除去でき、タバコ残渣が本体 1 0 0 の内部に落ちることを回避し、本体 1 0 0 の清潔を確保する。

【0 0 2 6】

以上のように、本発明に係るエアロゾル発生装置は、貯蔵器及びマウスピースが共同でエアロゾル発生基体を収容するチャンバーを形成することで、エアロゾル発生基体の位置を効果的に固定でき、タバコを吸っているうちに、エアロゾル発生基体又はタバコ残渣が落ちる可能性を回避し、又、ユーザーが本体から抽出部を直接抜く時、貯蔵器とマウスピースが軸方向に力を受ける場合、マウスピースが径方向に外側へ拡張することで、マウスピースと貯蔵器を分離させ、抽出部が本体と分離する前に、本体はマウスピースの本体と隣接する一端が径方向に外側へ拡張することを制限し、このようにして、抽出部が本体と分離する前に、マウスピースが径方向に外側へ拡張できないため、貯蔵器とマウスピースが分離不能になり、ユーザーがエアロゾル発生基体を直接誤って抜くことを回避し、チャンバーの清潔を確保する。

【0 0 2 7】

以上の説明は、本発明の具体的な実施形態の実施例であり、本発明の技術的思想をより明確に説明するためのものであるが、本発明の請求の範囲を限定するものではない。本発

10

20

30

40

50

明の技術的思想に基づいて、当業者は上記実施例を容易に変形したり変更したりすることができ、これら本発明の技術的思想に属する変形や変更は本発明の添付請求の範囲に含まれている。

【符号の説明】

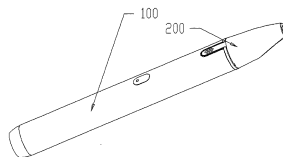
【0028】

- 100－本体
- 111－回路制御基板
- 112－回路基板ホルダー
- 113－プッシュボタン
- 114－インジケータ
- 121－ケース
- 122－底蓋
- 130－ホルダー
- 131－ガイド溝
- 140－加熱部
- 151－充電パッド
- 152－バッテリー
- 200－抽出部
- 210－マウスピース
- 211－カンチレバー
- 212－吸い孔
- 213－案内溝
- 220－貯蔵器
- 221－案内部
- 230－エアロゾル発生基体

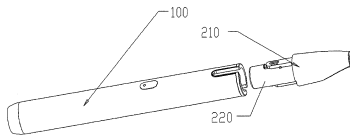
10

20

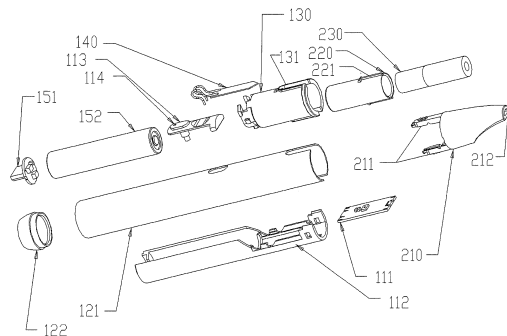
【図1】



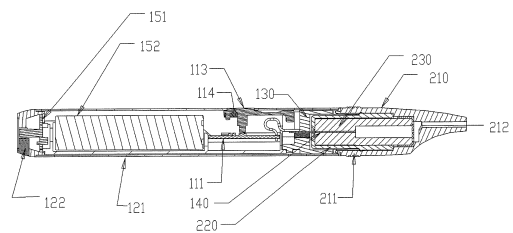
【図2】



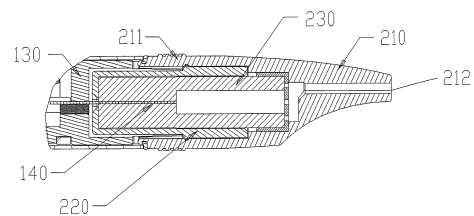
【図3】



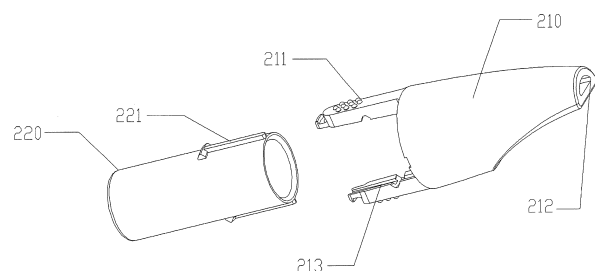
【図4】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

- (74)代理人 100080791
弁理士 高島 一
- (74)代理人 100136629
弁理士 鎌田 光宜
- (74)代理人 100125070
弁理士 土井 京子
- (74)代理人 100121212
弁理士 田村 弥栄子
- (74)代理人 100174296
弁理士 當麻 博文
- (74)代理人 100137729
弁理士 赤井 厚子
- (74)代理人 100151301
弁理士 戸崎 富哉
- (72)発明者 リ、シャンリン
中華人民共和国、200082 シャンハイ、ヤンプー ディストリクト、チャンヤン ロード
ナンバー 733、ビルディング 20、ルーム 740
- (72)発明者 リュ、ウェンジェ
中華人民共和国、200082 シャンハイ、ヤンプー ディストリクト、チャンヤン ロード
ナンバー 733、ビルディング 20、ルーム 740
- (72)発明者 チュ、ジャンホン
中華人民共和国、200082 シャンハイ、ヤンプー ディストリクト、チャンヤン ロード
ナンバー 733、ビルディング 20、ルーム 740
- (72)発明者 ニエ、ビン
中華人民共和国、200082 シャンハイ、ヤンプー ディストリクト、チャンヤン ロード
ナンバー 733、ビルディング 20、ルーム 740

審査官 河内 誠

- (56)参考文献 特表2014-533513 (JP, A)
特開2017-127300 (JP, A)
中国特許出願公開第105831812 (CN, A)
中国特許出願公開第106473232 (CN, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A24F 40/00-47/00